

**憲法しんぶん 速報版**  
 発行 憲法改憲阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007  
 ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2018年12月7日 (金)

NO. 916号

本号3頁

# 自民、改憲4項目の今国会提示断念！

自民党が目指した6日の衆院憲法審査会は、開催が見送られました。自民党は、安倍首相が意欲を示した憲法9条への自衛隊明記を含む「改憲4項目」の定例憲法審査会への提示を断念しました。報道では、「与野党対立が収まる気配はなく、来年の参院選前の改憲案発議も困難な情勢となった」と報じられています。

10日に会期末を控え、6日は衆院憲法審の最後の定例日でした。与党筆頭幹事を務める自民の新藤義孝・元総務相は5日、立憲民主党の山花郁夫・野党筆頭幹事と国会内で会談。新藤氏が6日開催を求めたのに対し、山花氏は開催できる環境にはないと拒否しました。



それを受けて、自民、公明両党などの幹事らは対応を協議し、6日開催を見送ることにしました。自民は今国会で「改憲4項目」の提示を目標に定め、6日の提示を模索しました。しかし、強硬な運営には出入国管理法改正案の会期内成立をめざす参院側や公明が反対するなどし、「今国会での提示はできない」との判断に傾きました。

来年の通常国会では、統一地方選や参院選を見据えた与野党対立が予想されるほか、公明も参院選前の改憲案発議には慎重姿勢を示しています。そのため、報道機関は「参院選までの発議は困難な見通し」と伝えています。

## 一方で、自民党萩生田幹事長代行 改憲案の今国会での提示を模索

憲法改正をめぐる自民党の萩生田幹事長代行は、今の国会で党の憲法改正案を提示することは基本方針だとして、引き続き提示を模索したいという考えを強調しました。

今の国会の会期末が来週10日に迫るなか、自民党は憲法審査会に「自衛隊の明記」など4項目の憲法改正案の提示を模索していますが、野党側は審査会の開催に応じない構えを見せています。自民党の萩生田幹事長代行は記者会見で「野党側の考えもあるだろうが、波静かにテーブルに着いてもらえればありがたい。今国会での改正案の提示が基本方針なので、機会があれば当然提示したい」と述べ、引き続き提示を模索したいという考えを強調しました。

どうも、国会閉会日の10日にでも「閉会中審査に関する件」として衆院憲法審査会を開催し、その場で改憲案を提示する構えなのではないでしょうか。そうなると、与野党間の対立はより激しいものになるでしょうから、彼らも慎重に対応すると考えますが、何をするか分からないのが安倍政権です。気を引き締めて、最後まで「憲法審査会を開催するな」「改憲案提示を断念せよ」の声を上げ続けましょう。

## 自民政憲案「提出」許すな！

## 12・6早朝緊急抗議行動に300人！

衆院憲法審査会が予定されていた6日、午前9時より議員会館前で、「憲法審査会強行開催糾弾 自民政憲案「提出」許すな！ 12・6早朝緊急抗議行動」が開催され、300人が参加しました。主催は総がかり行動実行委員会。

参加者は憲法審査会開催を阻止したことを喜ぶとともに、引き続き300万人署名を達成し、安倍9条改憲を阻止しようと決意を固めました。

冒頭、主催者あいさつで高田健さんは、衆院憲法審査会の開催



が中止されたことを報告するとともに、萩生田光一幹事長代行が10日の閉会日に衆院憲法審査会を開催し、改憲案を提示したいと述べていることを紹介し、「まだ気を許してはいけない。引き続き『開催するな』の声を上げよう」、そして「通常国会でも引き続き安倍9条改憲阻止に向けて奮闘しよう」と訴えました。



駆けつけた日本共産党赤嶺政賢議員、社民党福島瑞穂議員、立憲民主党・市民クラブ小川淳也議員が連帯のあいさつを行いました。さらに、日本共産党の本村伸子議員、無所属の柚木道義議員も参加しました。

日本共産党の赤嶺政賢議員は「臨時国会の40日間、憲法審査会を開催させないよう、緊張した毎日だった。市民と野党の共闘で本日の開催をストップさせた。しかし、10日も開催したいとの動きもあり、引き続き開催しないように頑張っ

て行こう」と訴えました。そして、九条の会、改憲反対法律家6団体、TPP交渉差し止め・違憲訴訟の会から連帯のあいさつがありました。九条の会の小森陽一事務局長は「青森県内数カ所を訪問したが、戸別訪問を繰り返すなど、各地で懸命に3000万人署名にとりくんでいる。そして、熊本では参院選の候補が決まる場面に立ち会うことができた。市民の共同、市民と野党の共闘が広がっている」と語りました。

## 新潟 憲法審査会ひらくな! 12・6新潟駅前緊急街宣

新潟県憲法センターは、6日朝、新潟駅前（東大通り）において、「憲法審査会ひらくな!」「改憲案『提出』するな!緊急街宣」に取り組み、広く県民に訴えました。

緊急の呼びかけにも関わらず、約30名が参加して、「改憲案提出するな!・安倍9条改憲NO!」の横断幕スタンディングに取り組みました。



憲法センターから5名の弁士がそれぞれ、「憲法審査会開くな! 自民党を改憲案提示断念に追い込んだのは、国民世論と野党の結束の力」として、「さらに『市民と野党の共闘』で、審査会開会を許さず、改憲案提示・改憲発議阻止にむけて大きく声をあげよう!」

「日本が世界に誇る平和の宝・憲法9条を守ろう!」と市民・労働者に訴えました。

《参加団体》

県労連（コープ・建交労・農協労・公務公共・年金者・ユニオン）

新商連・民医連・原水協・新婦人・革新懇・守る会・治維同盟・日本共産党など

《弁士》

県労連：佐藤一弥議長 日本共産党：渋谷明治県議 新婦人：小東友子会長

憲法会議：酢山省三事務局長 新商連：青木敦志事務局長

## 「美しい憲法を作る会」

## 全国大会で憲法審での審議促進求める

憲法改正を目指す有識者らでつくる「美しい日本の憲法をつくる国民の会」（櫻井よしこ共同代表）は5日、砂防会館で全国大会を開催しました。集会には1100人が参加。国会議員本人111人、代理123人が参加しました。

集会では、憲法改正の国民投票の早期実現のため「各党が、政局を離れて憲法審査会での審議を促進し、改正原案作成に向けた合意形成に努めるよう要望する」「全国の選挙区に、国民投票に向けた啓発活動の推進拠点を設立し、憲法改正の国民的論議を地方から熟成する」とする声明文を採択しました。

声明文は、一部野党が衆参の憲法審査会の開催を拒否している点を挙げ「憲法改正の議論の場を奪うことであり、ひいては国民主権をないがしろにするものである」と批判しました。

大会では自民党下村博文憲法改正推進本部長、公明党魚住祐一郎参議院会長、希望の党松沢成文代表、日本維新の馬場伸幸幹事長と、会派「未来日本」の長島昭久代表者が登壇しました。自民党の下村博文憲法改正推進本部長は「日本だけが、戦後一度も憲法改正も修正もしてこなかった。本当に国民主権、民主主義、立憲主義の国なのかが問われている」と強調しました。

# 秘密保護法強行採決から5年 国会前集会と「集い」を開催

12月6日は、秘密保護法強行採決から5年目の日です。秘密保護法廃止実行委員会と共謀罪NO！実行委員会は、お昼に議員会館前で「12・6 共謀罪法廃止！秘密保護法廃止『12・6 4・6を忘れない6日行動』」を開催し、夜には文京シビックセンターで「12・6 秘密保護法強行から5年 民主主義、市民の知る権利を問う集い」を開催しました。

## 雨の中、秘密保護法や共謀罪法廃止の

### 決意固め合う！

「12・6 共謀罪法廃止！秘密保護法廃止『12・6 4・6を忘れない6日行動』」では、日本共産党の藤野保史衆院議員、立憲民主党の逢坂誠二衆院議員、社民党の福島瑞穂参院議員が駆けつけ、秘密保護法や共謀罪法の国会でのたたかいを振り返りながら、それらの問題点を厳しく指摘し、「秘密保護法も共謀罪法も廃止させよう」と呼びかけました。

参加した団体からは、ミックの岩崎さん、日本山妙法寺の江波さん、特定秘密保護法反対藤沢の会の斉藤さん、国民救援会の鈴木さんがスピーチしました。斉藤さんは藤沢のとりくみを紹介し、地元でたたかうことの重要性を訴えました。

参加者は市民と野党の共闘で衆院憲法審査会を開催させなかったことを確信に、引き続き、秘密保護法や共謀罪法の廃止を求めて奮闘しあう決意を固めました。

## 東京新聞社会部記者の望月衣塑子さんが講演

文京シビックセンターで「12・6 秘密保護法強行から5年 民主主義、市民の知る権利を問う集い」では、東京新聞社会部記者の望月衣塑子さんが「民主主義とは何か～報道の現場から～」とのテーマで講演されました。また、秘密保護法対策弁護団からアピールがありました。



## 各地のとりくみ

### 東京 「市民と野党の勝利をめざそう in 参議院選東京選挙区」を開催

豊島区で28日、東京10区で市民と野党の共同で衆院選に勝つことをめざす市民ネットワーク・TeNネットワークが主催する「市民と野党の勝利をめざそう in 参議院選東京選挙区」が開かれました。

日本共産党の吉良よし子参院議員、岸良信豊島地区委員長、立憲民主党の手塚仁雄衆院議員、鈴木庸介東京10区総支部長、山本太郎参院議員らが出席。参院選勝利に向け、国会情勢や選挙政策などを語り合いました。

共同代表の森田彦一氏は「参院選で東京から市民と野党の候補を4人以上とるために、市民と野党が一緒になって政策をつくり、たたかっていく選挙にしよう」とあいさつしました。

吉良氏は、前日に衆院で強行採決され、当日も参院での審議が強行された入管法の改悪について、自公与党や政府の姿勢を批判。一方で野党が結束して対応する中で、隠されてきた外国人労働者の生の実態が明らかになったと語り、「選挙でも共闘の輪を広げて勝っていこう」と訴えました。

手塚氏は、「市民と野党の共闘で政権と対峙して、多くの人に野党を押しってもらうようにしていく」と強調。山本氏は消費税問題など市民にとって「魅力的な経済政策を共通政策として打ち出したい」と語りました。

### 三重 小雨が降る中、「アベ政治を許さない」宣伝

津市で3日、「憲法を守り生かすみんなの会・津」と「憲法共同センター・みえ」が呼びかけた「アベ政治を許さない」宣伝が行われました。小雨が降る中、津市まん中広場前に9人が参加し、プラカードを掲げて、3000万人署名を訴えました。

日本共産党の中川たみひで参院選挙区候補、豊田光治前津市議、大獄隆司県委員長らが消費税増税反対、憲法9条を守ろうと訴え、「安倍総理が辞めるまで宣伝を続ける。来年の参院選で安倍政治に審判を下そう」と力を込めました。

署名した48歳の女性は「安倍政権は暴走している」と述べ、「軍事にどんとお金を使い、妊婦の医療費の負担増や消費税をあげる。お金の使い方がおかしい」と語りました。